

的、学際的な、地域研究を志向する学会であるといえるだろう。

1日目は、池明観氏による「北東アジアの地域交流と新しい世紀」と題する講演からはじまるシンポジウムが行われた。参加者が何らかの形で北東アジア諸国との関係を持っているという学会の性格もあって、講演の後のパネルディスカッションでは、北東アジア諸国との交流の理論と実践について、白熱した議論が展開された。会場からも、北朝鮮に関する正確な理解を求める発言が行われ、参加者の層が幅広いことが、議論の内容を豊富にする事例を見ることができた。

2日目は、4つの分科会に分かれて、各分野の研究者が日頃の研究成果を発表した。この学会は、若い世代の研究者の発表を歓迎するという方針のため、大学院生の発表も多く、活気のある分科会となった。

筆者は「南北経済交流の法的諸問題：南北間の合意書を中心に」という題目で、2000年、南北朝鮮の間で合意された経済交流関連の4つの合意書の法的意味と今後の課題について発表した。各分野の研究者から、有益なコメントと質問をいただいた。

地域研究を目的とした学会は、数多く存在するが、その多くは単一の国を対象としたものだ。環日本海学会のような、複数の国を包含する地域を対象とした学会は、それほど多くはない。そのような中で、このような学会が継続していることは、日本が北東アジア地域に対して、誇ることのできる事実であるように思った。また、この学会の質と量をさらによくしていくことが、日本の北東アジア地域に対する知的貢献の一環として重要な意義をもっていると感じた。

(ERINA調査研究部研究員 三村光弘)

環日本海学会第7回学術大会

2001年11月10～11日の両日、富山市の富山県民会館で環日本海学会第7回学術研究大会が開催された。

環日本海学会は、1994年11月に設立された。環日本海諸国(日本、韓国、北朝鮮、中国、ロシア、モンゴル)を研究対象とする研究者によって構成されている学会だ。そのため、そこに参加する研究者は、経済を中心とした社会科学分野だけではない。自然科学分野の研究者も若干名ではあるが参加している。この点で、環日本海学会は分野横断